

国語科学習指導案

三原市立幸崎小学校 柏原 真由美

- 1 日 時 令和4年11月9日(水)第4校時
- 2 学 年 第1学年1組 男子7名 女子7名 計14名
- 3 単元名 のりものじまん大かいをしよう 「いろいろな ふね」

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定している。

「文章の中の重要な語や文を考えて選び出す」力を育成するには、これまで「どうやってみをまもるのかな」の学習において、文章のまとまりごとに内容を読み取り、本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出した経験を踏まえ、本単元では、文章の中で説明している観点を捉えて、大事な語や文を見つけることができるようになることが必要となる。

本単元で扱う教材文「いろいろな ふね」は、特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ、役目や構造、設備などについて説明した文章である。四種類の船の例示が同じ文章構成、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えることに適している。このことから、本単元は、文章の中で説明している観点を捉えて、大事な語や文を見付ける力を育成することに適していると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに、教材文「どうやってみをまもるのかな」を読む単元において、「問い」に対する「答え」を捉える学習を行ってきた。多くの児童が、文章に書かれていることや挿絵をもとにして、読んで分かったことを積極的に発表することができている。しかし、文章の内容を正確に読み取ることや、文章中の重要な語や文を正確に選び出して、ワークシートに書くことができない児童が数名おり、課題がみられた。そのため、本単元の学習において、教科書の挿絵がどの文章と対応しているのか考えさせたり、共通点や相違点、事柄の順序を考えさせたり、重要な語に線を引かせたりする活動を取り入れる。そして、文章に書かれていることを理解し、どのような船であるのか説明する活動を通して、文章中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。

(3) 指導観

指導にあたっては、単元の導入において、乗り物について説明された科学読み物を使って読み聞かせを行う。乗り物の写真を見せながら、どのような役目の乗り物なのか、どのようなつくりなのか考えながら読み進めることで、乗り物への興味を持たせる。そして、第三次における「のりものじまん大かい」において、自分で調べた乗り物を友達に紹介したいという意欲につなげる。

学習を進めるにあたっては、船の「やく目」「つくり」「できること」の観点に沿って、それぞれの船についての文章を読み取り、カードにまとめる活動を行う。その際、短冊にしたカードを三つの観点到当てはめる活動を行い、なぜ、説明の文章がその観点到当てはまるのか理由を考えさせることを通して、「～ための」などの文章中の重要な語を考えて選び出すことができるようにする。そして、全ての船が、「やく目」「つくり」「できること」で説明されていることに気付けるようにする。

終末には、自分で選んだ乗り物について調べた「のりものブック」を作成し、クラス全体で「のりものじまん大かい」を行う。「のりものブック」は、乗り物に興味を持っている子が多いことと、自分だけの本が作りたいという児童の思いから、一人一人が作成することとする。そのために、児童が、

進んで乗り物について調べたいという意欲がもてるよう、学校図書館や市立図書館から借りてきた乗り物に関する図鑑や科学読み物を20冊程度用意し、児童がいつでも手に取り読めるようにする。そして、「のりものブック」をもとに、自分の調べた乗り物の写真を提示しながら、乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を紹介する「のりものじまん大かい」を行う。「のりものじまん大かい」では、乗り物の仕組みやできることについて質問をしたり答えたりすることを通して、これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして、読んで分かったことを積極的に伝え合うことができるようになる。

5 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

学校図書館などを利用し、乗り物について説明された図書等を読み、重要な語や文を選び出して「のりものブック」を作る活動を通した指導【言語活動例 C(2)ウ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ)	・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことを「のりものブック」にまとめようとしている。

7 評価の具体及び手立て

	評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】	「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て
思考・判断・表現	<p>しょうぼうていの「やく目」「つくり」「できること」を説明することを通して、文章中の重要な語や文を考えて選び出している。</p> <p>ワークシート</p>	文章がどの観点に当てはまるかわからない児童には、既習の掲示に注目させ、「～ための」は、「やく目」の意味があることに気付かせるようにする。

8 指導と評価の計画（全 10 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	絵本の読み聞かせを聞き、どんな乗り物があるのかについての問いを持ち、「のりものじまん大かい」というゴールを設定する。				
二	2	教材文を読み、どんな船が出てくるのか等、内容の大体を捉え、学習課題を設定する。				
	3	「きゃくせん」の「やく目」「つくり」「できること」をカードにまとめる。		(○)		[思考・判断・表現] ワークシート ・教材文の中の重要な語や文である、ふねの「やく目」「つくり」「できること」を考えて選び出している。
	4	「フェリーボート」の「やく目」「つくり」「できること」をカードにまとめる。				
	5	「ぎょせん」の「やく目」「つくり」「できること」をカードにまとめる。				
	6	「しょうぼうてい」の「やく目」「つくり」「できること」をカードにまとめる。(本時)				
	7	話題提示とまとめの役割について考え、文章構成を捉える。	○			[知識・技能] ワークシート ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
三	8	図鑑で調べた乗り物について、カードにまとめ、「のりものブック」を作る。		○	○	[思考・判断・表現] ワークシート ・図鑑から、乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を探し、文章中の重要な語や文を考えて選び出している。 [主体的に学習に取り組む態度] 児童の様子・ワークシート ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことを「のりものブック」にまとめようとしている。
	9 10	「のりもの じまん大かい」を行い、感じたことを伝え合い、学習を振り返る。				

9 本時の学習

(1) 本時の目標

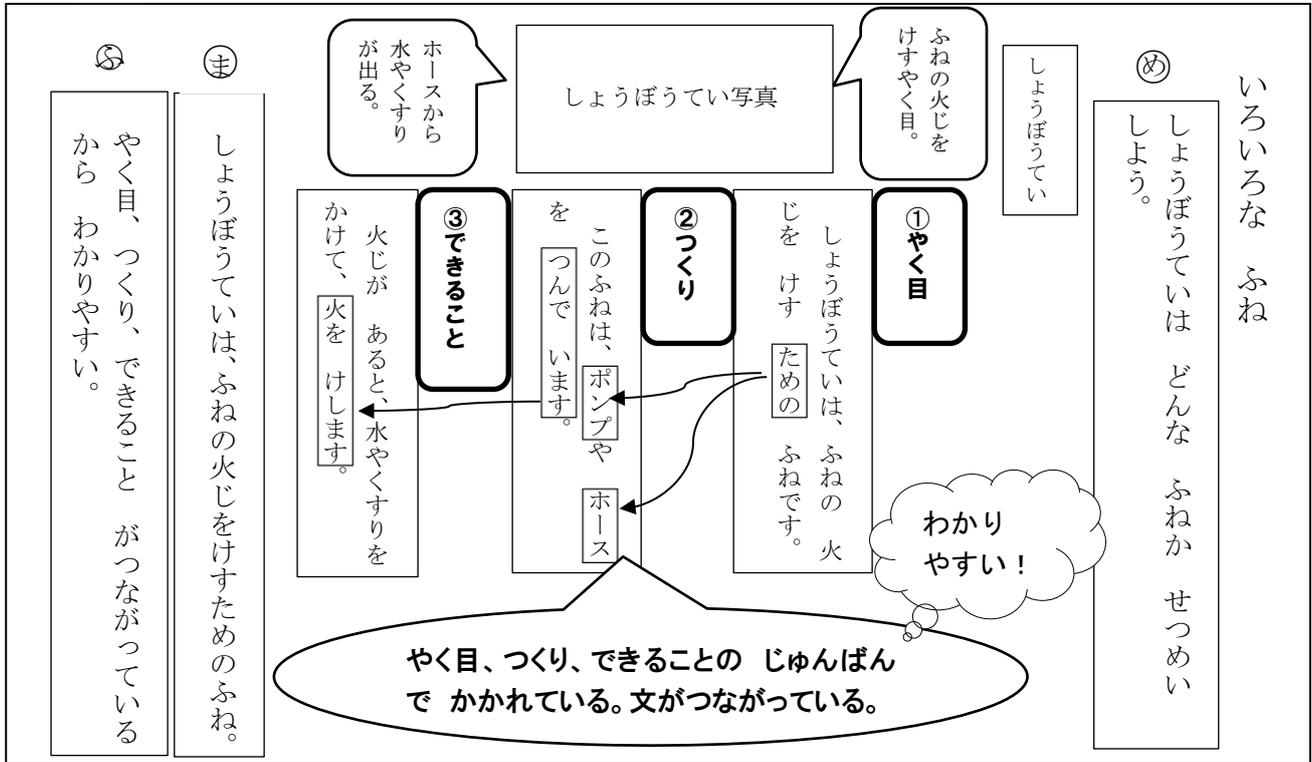
消防艇について説明する上で重要な語や文である、「やく目」「つくり」「できること」を考えて選び出すことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
<p>○単元計画から本時の学習を確認する。</p> <p>○学習課題をもつ。</p> <p>○音読をする。</p> <p>○消防艇について説明された部分から、「やく目」「つくり」「できること」を見付ける。</p> <p>○ペアで交流する。</p> <p>○全体で交流する。</p> <p>○本時の学習のまとめをする。</p> <p>○「やく目」「つくり」「できること」がなぜ順番に説明されているのか考える。</p>	<p>・単元計画から、本時は「しょうぼうてい」について学習することを確認し、ふねの説明には、「やく目」「つくり」「できること」が書いてあることに気付くようこれまでの学習を想起させる。</p> <p>④ しょうぼうていは どんな ふねか せつめい しよう。</p> <p>・課題を解決するために、消防艇の「やく目」「つくり」「できること」を見つけながら音読するよう促す。</p> <p>・文章の中の重要な言葉に気付くために、消防艇の説明の部分を短冊カードにして、「やく目」「つくり」「できること」に当てはめる活動を設定する。</p> <p>・なぜそのように当てはめたのか根拠がわかるように、文章の中の重要な語や文に線を引くように指示する。</p> <p>◆文章がどの観点に当てはまるかわからない児童には、既習の掲示に注目させ、「～ための」は、「やく目」の意味があることに気付かせるようにする。</p> <p>・自分の考えが相手に伝わるように話すために、「やく目は～です。理由は～からです。」という話し方で根拠を述べて説明するよう促す。</p> <p>・写真でわかることが文章のどこに書かれてあるのか、指し示しながら根拠を挙げて説明している児童を、肯定的に評価する。</p> <p>⑤ しょうぼうていは、ふねの火じをけすためのふね。</p> <p>・これまで学習してきた四種類の船が「やく目」「つくり」「できること」の順で説明されていることに気付かせるために、書かれていることの共通点を見つけさせる。</p> <p>・見付け出した「やく目」「つくり」「できること」を一文に繋げることで、「火事を消すため」にポンプやホースをつんでおり、ポンプやホースで火を消すことができる。」と文が繋がっていることに気付かせ、読者にとってわかりやすいことを確認する。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート 消防艇について説明する上で重要な語や文である、「やく目」「つくり」「できること」を考えて選び出している。</p>

<p>○振り返りをする。</p> <p>○次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「やく目」「つくり」「できること」が順番に書かれている理由について、自分なりの考えを書かせる。 ・次時は、自分で調べた乗り物をカードにまとめる活動を行うことを予告し、活動に期待が持てるようにする。 	
---	--	--

(3) 板書計画

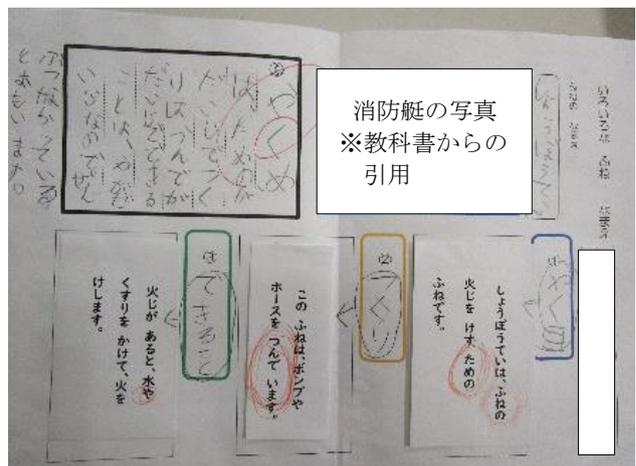


10 手立ての具体

○文章中の重要な語や文を見付けるためのキーワードに着目させる

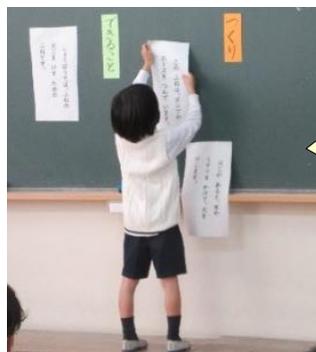
「やく目」「つくり」「できること」の三つの観点でまとめることができるようになるために、文章の中の重要な語や文を見付ける上で着目すべき言葉線を引かせたり○で囲ませたりした。「～ための」は、やく目について書かれていること、「あります。」「つんでいます。」はつくりについて書かれていることを、児童が探しながらワークシートにまとめた。キーワードに気付くことができない児童には、これまでの掲示を一緒に確認し、同じ言葉で表現されていることに気付かせた。

大事な言葉は「～ための」の近くにあるんだな。



○短冊カードにして文章を並び替える

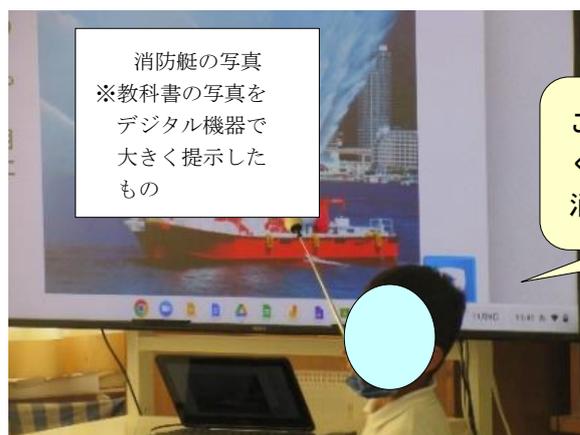
「やく目」「つくり」「できること」には因果関係があることを捉えるために、文章を短冊カードにして並び替えを行った。初めに、教師が間違った文章の短冊を貼ると、「ちがうよ！」と気づき、意欲的にカードを貼る姿が見られた。その際、文章中の「ための」「あります。」「います。」といった言葉に着目させ、それぞれが何を表しているか考えながらカードを貼らせるようにした。



ポンプやホースをつんでい
ると書いてあるから、これは「つくり」
だな。

○写真と文章を対応させて説明させる

文章の中の言葉が、船のつくりのどこのことであるのか捉えさせるために、写真を指し示しながら説明をさせた。教師が、「どこに書いてあるの?」「どうしてそう思うの?」と切り返すと、文章に戻り、「ホースをつんでいます。と書いてあるから…」と写真と文章を対応させながら話をすることができた。



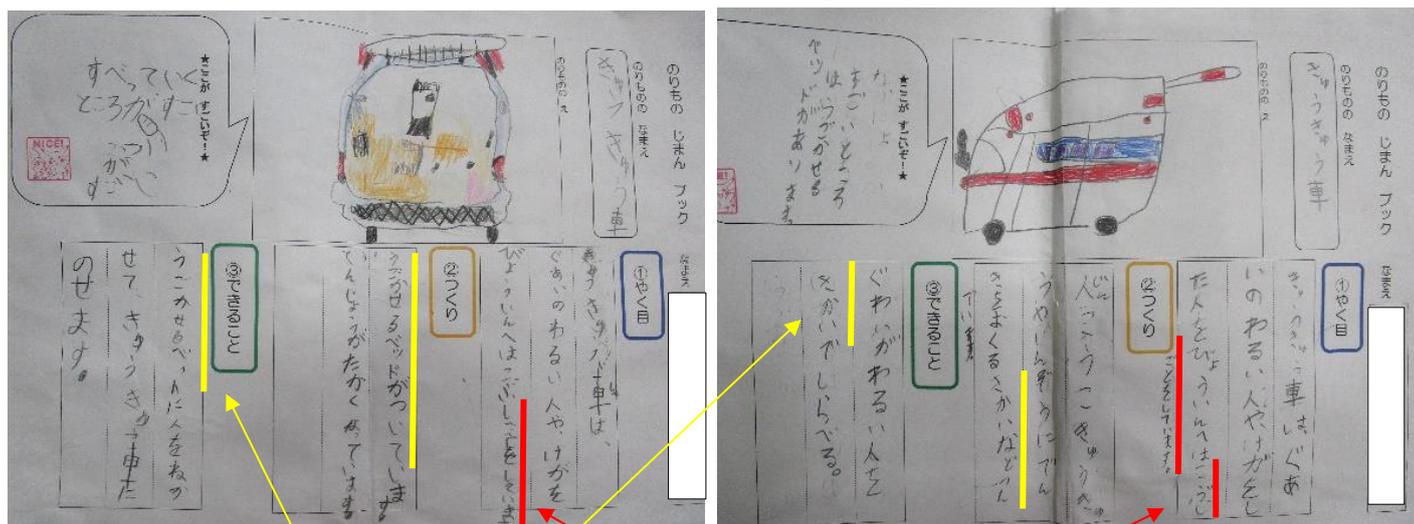
ここにあるホースから水やく
すりが出て、船の火事を
消していると思います。

11 評価の実際

図鑑から、乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を探し、文章中の重要な語や文を考えて選び出すことができた児童は14名中10名であり、B評価とした。具体的には、「～の仕事をしています。(～するための車です。)」などと書かれていることが「やく目」であることに気付いている、「つくり」に対して「できること」が書かれているなど、三つの観点が対応して書かれていることである。

一方、自分自身で図鑑から「やく目」「つくり」「できること」を見付け出すことができなかった児童をC評価とし、教師と一緒に図鑑を見て声かけをしながらワークシートを書かせた。今後の手立てとして、児童に図鑑のコピーを渡し大事な言葉に線を引かせるなど、「やく目」「つくり」「できること」が書かれてある根拠が自分自身でわかるような工夫を行いたい。児童が、自分の力で活動できる手立てをこれから考えていく必要があると感じる。

【B評価の児童のワークシート】



「つくり」に対して「できること」が書かれている。

「しごとをしています。」と書いていることから、「やく目」であることに気付いている。

12 成果と課題

○重要な語や文に注目しながら読む

単元を通して、「ための」「あります。」などの言葉にこだわり、児童と一緒に重要な語や文を見つけながら教材文を読むことができた。教師が、「どうして?」と聞くと、「ここに〇〇と書いてあるから。」と文章を根拠に説明する様子が14名中10名の児童に見られるようになった。

○積極的に本に親しむ

乗り物カードを作るために、積極的に本を読む児童が増えた。普段の生活においても、学習に関連する本を教室に置くことで、科学読み物や物語等、様々なジャンルの本を進んで読もうとする様子が見られるようになった。

△「やく目」「つくり」「できること」のつながりのよさに気付かせる

どの船も、「やく目」「つくり」「できること」の順序で書かれていることに気付いても、なぜこうした順序で書かれているのかについての自分なりの解釈をもたせることができなかった。「順番でないとうっかりにくい。」「文がつながっている。」と一部の児童は気付いていたが、今後全ての児童にこうした力を身に付けさせるために、順序を変えた文章と元の文章を読み比べさせ、どちらがわかりやすいか考えさせるなどの手立てが必要であると感じる。

△内容だけでなく文章の構造を学習する

本時の学習のように、「しょうぼうていはどんなふねか?」と教材の内容を問う学習だけでなく、「どのような順番で説明されているか?」など、文章の構造を学習する時間を設定する必要がある。事柄の順序を考えたり、重要な語や文を選び出したりしたことが、次の単元や2年生の学習につながるようにしたい。